

令和7年度総合型選抜1期

小論文課題

〔設問〕

次の文章を読んで、「生きるとはどういうことか」について、あなたの考えを600字以内で述べなさい。

フランク^{注1}が70年代にウィーンの大学で教鞭を執っていた際、アメリカからの留学生の60%が「人生は無意味だ」と考えていたそうです。これに対して、オーストリア人、ドイツ人、スイス人で「無意味だ」と考えていたのは25%だった。特にアメリカ型の思考を持つ人にこういう考え方が多いことがわかった。さらに当時の統計で、若い麻薬患者の100%が「人生は無意味だ」と考えていたともいいます。

フランクは、強制収容所といういつ殺されるかもわからない状況下で、「生きるとはどういうことか」という意味について考えてきた。そして彼の人生の意味は「他人が人生の意味を考える手伝いをする」ことでした。

ガンの末期で寝たきりになった患者にとっての生きる意味を彼は問います。医者によっては、そういう人にはもはや生きる意味は無い、と判断するかもしれません。しかし、フランクはこう考えました。「その人が運命を知ったうえで取る態度によって、周囲の他人が力づけられる」という意味があるのだ、と。

あるガン患者は、死んで子供たちと別れるのが辛いことを訴えました。これに対してフランクは、あなたに身内がいなければ嘆くことも出来ない、少なくともこの世に置いていきたくないものを残しているのではないか、それがまったく無い人もある、という風に答えます。

人生の意味、という問題は、今でも非常に重要です。ドラッグが流行っていることから見ても、人生は無意味だと思っている現代人が実に多いように見えます。人生の意味について考えていくことが、個人にとっても共同体にとっても、非常に必要なことなのではないか。

注1：ヴィクトール エミール フランク オーストリアの精神科医・心理学者